６）外浦・目井津・大堂津と町並み
～地域経済を支えた産業関連文化財～

（１）概要と構成

日南市東南の海岸部は、中世ヨーロッパにも知られた外ノ浦をはじめ、目井津、大堂津と天然の良港が並び、海上交通・交易の要所として古くから栄えた。近代以降は漁業基地として繁栄し、港湾・灯台などの漁港や海上交通のための施設が整備された。明治６年（1873）に宮崎県の設置に伴い大堂津が下方村に併合されるまでは、外浦・目井津・大堂津はともに南郷筋に属しており、同じ地区とされていた。

近世には、耕地拡大による食糧増産の必要性が高まり、外ノ浦の干拓が開始され、平野の乏しい当地方において、貴重な水田となった。埋立は近代以降も継続されて、入り江の過半が耕地化した。

また、外浦、目井津、大堂津は油津とともに外洋に面した海上交通の要衝であったことから、幕末に飫肥藩が海岸線に砲台を築いた。明治17年（1884）には、国内最古の無筋コンクリート灯台が築かれ、第２次大戦時には回天や震洋の格納庫が設置されるなど、海上交通や軍事関連の文化遺産も多い。

なお、細田村（大堂津）においては、大正元年（1910）、全国に先がけて、公益質屋が設置されて全国に広まった。さらに、大堂津の集落内では、醸造業が盛んで、現在も明治時代から大正時代にかけての店舗や蔵が残されている。

・漁港、港湾施設及び灯台等の施設
・干拓事業、耕地拡大に関するもの
・陸上交通に関わるもの
・海浜軍備に関わるもの
・伝統産業・産物に関するもの
・埋立や耕地整理等の地域変遷に関する記録
・地域の信仰や民俗に関するもの
・人々の生活や教育を支援した施設、文化に関するもの

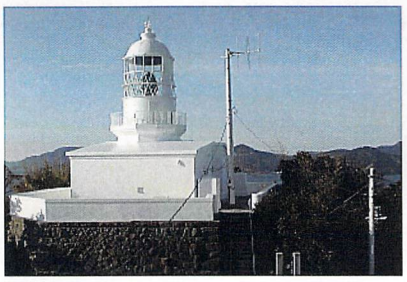
■関連文化財群分布（主な文化遺産）

■関連文化財群一覧（主な文化遺産）

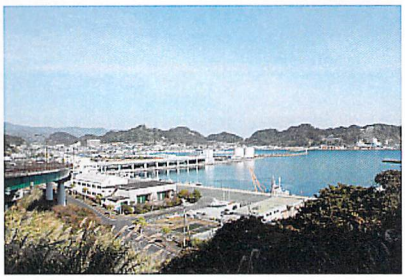
構成	文化遺産	指定状況
漁港・港湾関連施設	鞍埼灯台	未指定
	目井津港	未指定
	大堂津港	未指定
	外浦港	未指定
治水関連構造物	潟上外堤跡、潟上内堤跡	未指定
	松田堤跡	未指定
干拓、耕地拡大に関わるもの	外の浦の干拓地	未指定
陸上交通に関わるもの	外浦往還、市木往還、砂州の上を走る鉄道	未指定
海浜軍備に関わるもの	外浦砲台跡	未指定
	回天・震洋格納庫跡	未指定
伝統産業・産物に関するもの	脇本焼窯跡	未指定
	まぐろ、かつお、かつお節、生節	未指定
地域変遷に関する記録	細田村是、細田村耕地整理設計書、村営公益質庫事業成績調書、経済更生計画、宮崎県南那珂郡南郷村地図	未指定
地域の信仰や民俗に関するもの	中村神社、熱波神社、行滕神社、日之御崎神社、霧島神社、伍社神社、八坂神社、白蓮寺、常福寺、三島神社、圓心寺、若宮神社、西明寺	未指定
	九社神社神楽、三島神社神楽・獅子舞	未指定
	目井津子守舟歌	未指定
生活・教育・文化に関するもの	大島分教場跡	未指定
	公益質庫跡	未指定
	大堂津海水浴場、栄松ビーチ	未指定
	大堂津集落、外浦干拓地の集落	未指定

※代表的な文化遺産を示した。構成分類は試案である。

［漁港・港湾関連施設］



鞍崎灯台
明治 17 年（1884）に造られた西洋式灯台で、宮崎県内では最も古い灯台。大島の南端に立つ。日本最古の無筋コンクリート造り灯台として平成 20 年度に近代化産業遺産として認定された。

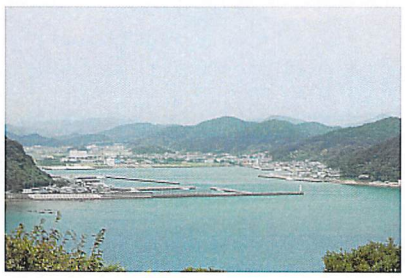


目井津港
目井津は古くからの漁村であった。堤防設備の無い頃は、台風時など被害を被っていたため、大正 15 年（1926）、地元住民の熱意により防波堤整備第一期工事に着手した。その費用の一部は受益者負担であり、地元住民は、節約、貯金してその費用を工面したという。その後も数度にわたって改修や整備が行われてきた。

［治水関連構造物］

松田堤跡
慶安３年（1650）、松田理右衛門の建議によって飫肥藩主伊東祐久によって築かれた堤。祐久は、耕地拡大と塩害防止のために、約 640 mの堤防を築いた。松田堤の名称は、建議者の松田理右衛門からきている。

［干拓、耕地拡大に関するもの］



外浦の干拓地
外浦は、江戸時代から数度に渡って干拓が行われてきた。干拓が行われる以前は。津屋野村や下方村辺りまで湾入していたという。慶安３年（1650）の埋立は松田理右衛、天保５年（1834）の築堤は黒木孫右衛門によって建議された。さらに、大正３年（1914）からは寺本伊作によって埋立が企画、実施された。

［海兵軍備に関するもの］

回天格納庫跡
第２次世界大戦（太平洋戦争）時の、回天（人間魚雷）の格納庫。市内には他にも、油津や外浦の湾内に十数ヶ所にずつ設置されていた。現在は、入口がふさがれている。

［伝統産業・産物に関するもの］

脇本焼窯跡
脇本焼の窯跡。脇本焼きは、酒谷の横山宝蔵氏が、長崎県より陶工中里音吉ほか数家族 20 数人を招き、磁器を焼成するために作られた。特に盛んに生産されたのは明治 30 年前後の 10 年間である。脇本焼は、白磁に青絵付されたものが主体であるが、青磁や透かし彫りの香炉などもある。

[地域変遷に関する記録]

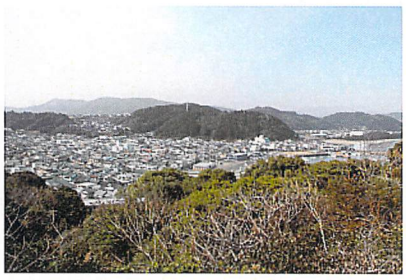
細田村耕地整理設計書
宮崎県文書センター所蔵文書の一つ。細田村耕地整理組合の、耕地整理に関する文書。耕地整理前後の図面や、設計図等が含まれ、土地の変遷を知る上で貴重な資料である。

[生活・教育・文化に関するもの]

公益質庫跡
公益質屋は、公益質屋法に基づき市町村または社会福祉法人が経営する庶民金融機関。民間の質屋よりも低利で流質期限が長いが、貸付金額などに制限がある。大堂津は、漁村であり不漁の際などは生活に困る者も多くいた。そのため、大正時代に公益で質屋を始めた。これがもとになり、公益質屋法が制定され、全国に広まった。

[地域の信仰や民俗に関するもの]

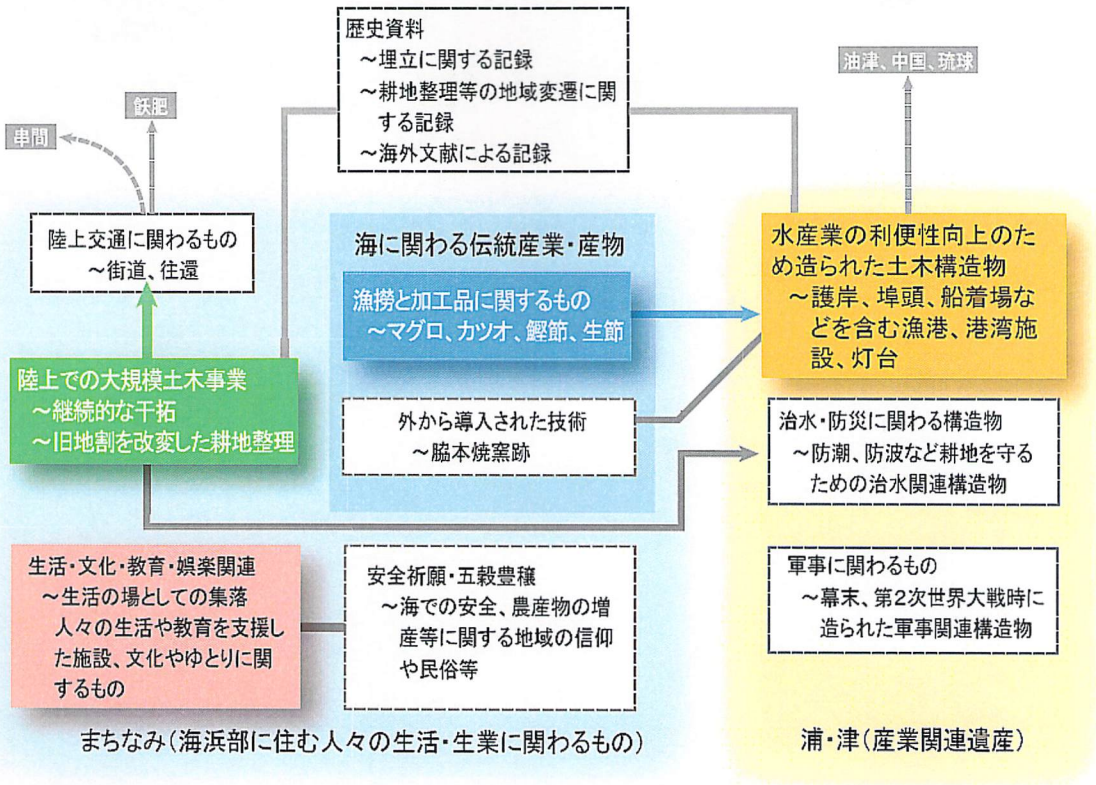
伍社神社
創建年は明らかではないが、飫肥藩主伊東祐久が慶安３年（1650）に外浦の埋立工事を進めた際、堤防の人柱に選ばれたシヲという女性の霊を祀った潮屋権現を改称して伍社神社となったという。



目井津子守船歌
昭和45年（1970）5月に南郷小合唱団が発足し、当時南郷小に在職中であった高橋政秋氏がその年の６月に制作した。それが地元で反響を呼び昭和47年（1972）には「南郷音頭」の完成とともにレコード化が決定し、B面に収録された。地元で歌い継がれる歌である。

[陸上交通に関するもの]

外浦往還
外浦へつながる往還。下潟村、上潟村、津屋野村、中村、脇本村を通っていた。間道や支道もあったという。



（２）保存管理（活用）計画

日南海岸は、日南海岸国立公園に指定されている。近年では、日本風景街道（シーニックバイウェイ）の日南海岸きらめきラインに登録され、港の駅めいつや道の駅なんごう等の日南海岸を眺めながら食事を楽しむ施設が所在するなど、海を眺む景勝地としての認知度は高い。

飫肥杉や、マグロ景気などで得た大きな富をもとに一気に形成された油津のまちとは異なり、古来より漁業を生業としながら形成されてきた大堂津・目井津・外浦の集落が海に沿って並ぶ。また、港に関わる文化遺産に加えて、外浦湾の大規模な干拓も平地に乏しい日南地方における耕地に対する思いの現れであり、この地域の歴史として大きな意味を持つ。

大堂津・目井津・外浦は合併前には日南市と南郷町に属し、中学校区も細田と南郷で異なっていたこと、それぞれが港を持ち、地域外との交流が盛んであったことなどから、地域住民の意識や性格などはそれぞれ異なる。しかし歴史を遡れば、この３つの津・浦はともに南郷筋に属し、漁業、製塩などを生業とし、漁民や職人を多く抱えて、海に関わるという意味でも町の成り立ちは酷似していた。また、細田プロジェクト会議などの地域おこしグループはあるが、旧行政区を越えた広域的な取り組みは行われてこなかった。

行政はこれらの文化遺産を包括する関連文化財群『外浦・目井津・大堂津と町並み』の周知を図るとともに、３つの地区の連携を高めるための橋渡しとして機能し、住民の組織作り支援を行う。また、南郷町は文化財の指定が非常に少なく、今回登録した文化遺産の中から、必要なものについては、文化財指定を進め、適切な保存を図ることが不可欠である。

①行政が行うべき施策

・文化遺産の調査と指定、修理等の補助（指定、指定文化財の修理補助等）

・文化遺産サインの充実（３つの港と町並みの関係を示した総合案内板、説明板の設置、案内標識等）

・文化遺産の調査と周知（由緒・来歴等の調査、マップ、パンフレットの作成、ホームページでの情報公開等）

・関連文化財群の文化遺産の維持管理やイベント企画を行う住民団体の設立支援（他の先行事例などの紹介、相互交流の協力等）

・学校教育との連携（ふるさと学習で地域の歴史や伝統についての学習）

②地域住民が主体となって行うべき活動

・既存団体の活動内容や対象範囲の拡大

・大堂津・目井津・外浦の合同イベントの開催

7）飫肥街道と山仮屋関所
～交通関連文化財群～

（1）概要と構成

飫肥藩では飫肥城を中心に、北は清武・佐土原、西は都城、南は串間方面へ各街道が延びていた。中でも飫肥から清武・佐土原方面へ向かう道は、参勤交代の道でもあり、北への押さえとして重要視され、山仮屋には関所が設けられた。

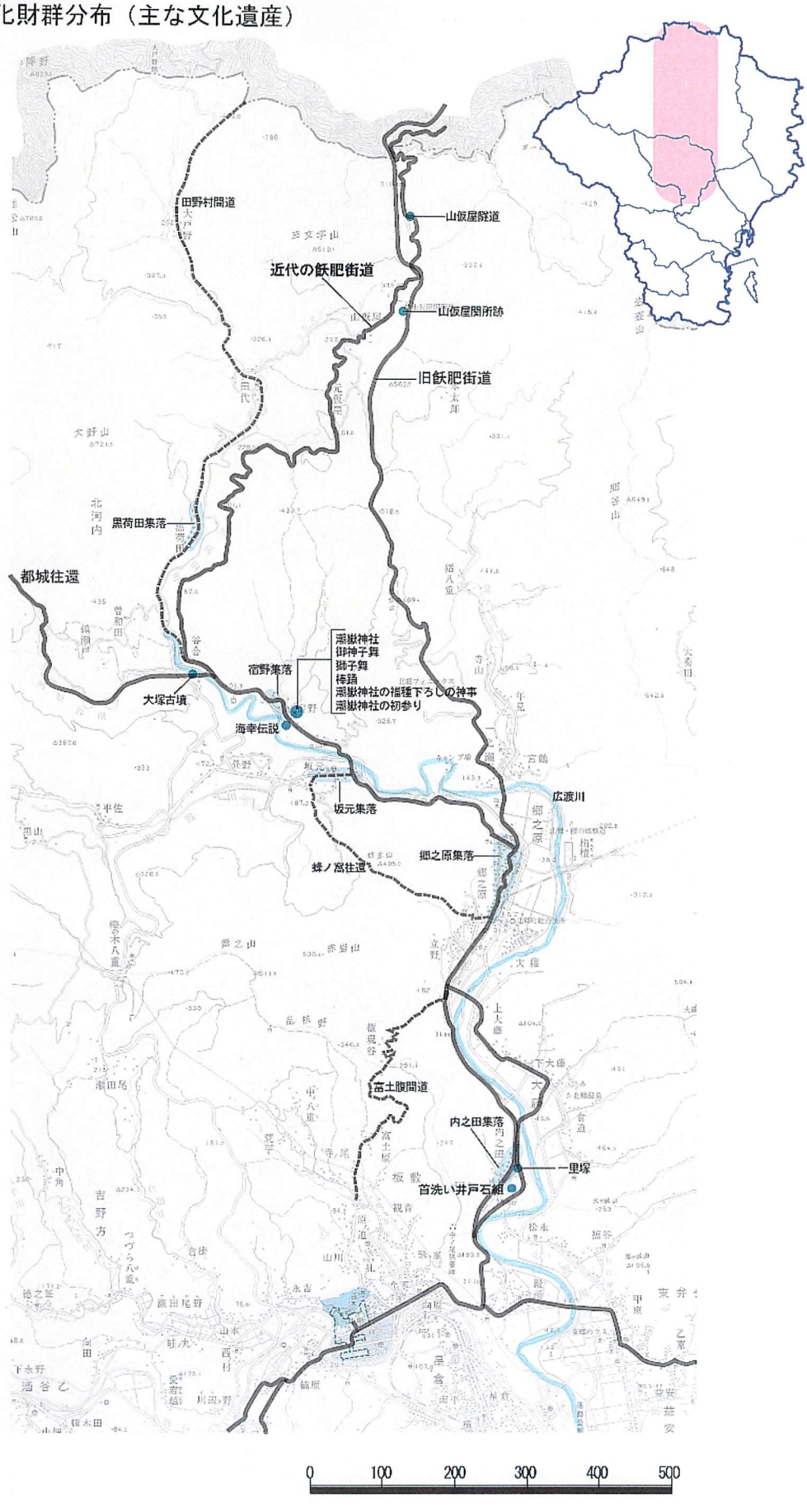
明治時代後期に入ると陸上交通が活発となり、人、物の動きも盛んになったが、海岸ルートは道路整備が遅れたことから、馬車道としての付け替えられた飫肥街道はさらに重要度を増した。人力車や馬車などの交通手段に合わせて、狭小な幅員の山仮屋峠に長さ約56mの煉瓦造りの隧道が造られた。この隧道は当時最良の煉瓦を使用して造られ、工事設計を記載した当時の文書が県の文書センターに保管されている。

飫肥街道沿いの北河内の宿野にある潮嶽神社は、日向神話に関係した海幸彦を祀る神社である。潮嶽神社では、神楽、御神子舞・獅子舞・棒踊りなどの伝統芸能が受け継がれ、春大祭には、豊作、豊漁を祈願する「福種下ろしの神事」が行われ、海の幸と山の幸を象徴するイノシシの頭とマグロが供えられる。このほかにも火闌降命の陵といわれる大塚古墳など、海幸彦と山幸彦の日向神話に関わる文化遺産が多い。

なお、関連文化財群の名称における飫肥街道とは、近世の旧飫肥街道、近代以降の飫肥街道、水運なども含む飫肥と宮崎（清武・佐土原）を結んだみちの総称として用いる。

・近世の交通に関するもの
・近代の交通に関するもの
・水上交通に関するもの
・交通発展の要因となったもの
・飫肥街道沿いの集落
・交通の発展や地域の変遷に関する記録
・神話・伝承に関するもの
・信仰・習俗・祭に関するもの

■関連文化財群分布（主な文化遺産）



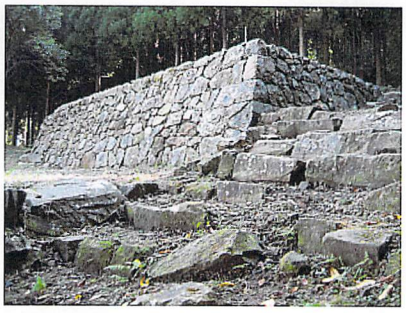
■関連文化財群一覧（主な文化遺産）

構成	文化遺産	指定状況
近世の道に関するもの	旧飫肥街道	未指定
	志布志街道	未指定
	都城往還	未指定
	蜂の窩(はちのす)往還	未指定
	小潮往還	未指定
	富土腹間道	未指定
	田野村間道	未指定
	山仮屋関所跡	市指定史跡
	一里塚標	市指定建造物
	首洗い井戸組石	市指定史跡
	朝倉茶屋跡	未指定
近代の交通に関するもの	山仮屋隧道	県指定史跡
	近代の飫肥街道	未指定
	駅(馬車駅)跡、トロッコ跡(犬だて)	未指定
水上交通に関するもの	広渡川	未指定
	高寺渡	未指定
交通発展の要因となったもの	飫肥杉山、分集林、発電所跡、製材所跡、炭窯、樟脳工場跡、採穂、杉苗畑	未指定
飫肥街道沿いの集落	郷之原集落、宿野・昼野・坂元集落、黒仁田集落、石垣と茶の生垣、墓地 坂元小学校跡、黒仁田小学校跡	未指定
交通の発展や地域の変遷に関する記録	北郷村是	未指定
	県税負担道路更正	未指定
海幸彦の神話・伝承に関する信仰・習俗・祭	潮嶽神社	未指定
	生達神社	未指定
	御神子舞、獅子舞、棒踊り、神楽	県指定無形民俗文化財
	みたまや	未指定
	潮嶽神社庭園	未指定
	潮嶽神社の福種下ろしの神事、潮嶽神社の初参り、相撲	未指定
	海幸伝説	未指定
	神楽煮しめ、あくまき、ゆずこんにゃく、いりこ餅、かにまき汁、シシ頭、マグロ	未指定
	大山祇命碑	未指定
	火闌降命の陵(大塚古墳)	市指定史跡

※代表的な文化遺産を示した。構成分類は試案である。

［近世の道に関するもの］

飫肥街道
江戸時代に飫肥藩の支配地、清武と飫肥城下を南北に結ぶ街道。清武から佐土原城下までの道筋も含んで飫肥街道とよばれることもある。平成８年（1996）に、歴史の道に指定された。



山仮屋関所跡
関所跡は山仮屋地域、県道宮崎北郷線の上方にある。昔の往還（飫肥街道）は、上郷の花立から山頂を横断し、和当地・赤木を経て清武に通じ、飫肥を結ぶ要路であり、関所として最適の場所であった。山仮屋関所は、寛文３年（1663）以前に存在したものと思われる。

［近代の交通に関するもの］

山仮屋隧道
北河内にある、煉瓦巻きの道路トンネルである。宮崎飫肥間の県道山仮屋線（現在の宮崎北郷線）の建設にともない、明治24年に着工、明治25年に完成した。トンネル内の覆工には、大阪の堺から取り寄せた良質煉瓦が使用されており、側壁部にはイギリス式の手法、アーチ部には長手積みの手法が採用されている。

［水上交通に関するもの］

高寺渡
東川（広渡川）の渡し。『日向地誌』には、「志布志街道の支道に属す。大藤の中流にあり。高寺より東に折れて本村（大藤村）の中央に至る。平水幅40間。徒歩すべし。冬月は単板橋を架す」とある。

［交通発展の要因となったもの］

発電所跡
大正９年（1920）、群営の広渡川発電所が完成し、それまで電灯未供給であった、北郷、酒谷、都井、市木へ電気を供給した。電気料は民営とは違い低く設定したため、精米や製材に電気を使用する者も増え、生活様式に変化をもたらした。

［交通の発展や地域の変遷に関する記録］

北郷村是
町村是は、明治中後期から昭和初期にかけて（日南では主に明治後期）、各郡や市町村、道府県が主体となって、政策の樹立・実行を目的として統計を含む調査をまとめたものである。北郷村でも明治42年（1909）に作成されている。

［飫肥街道沿いの集落］

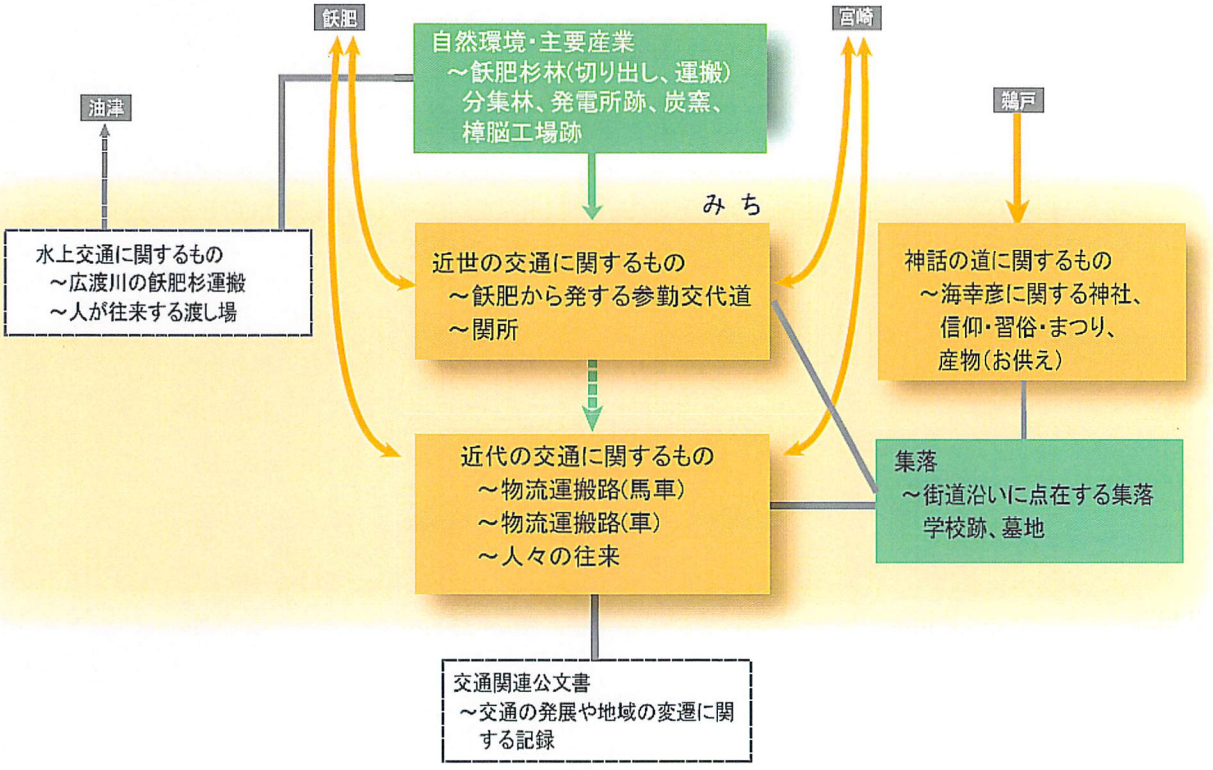
宿野集落
旧北河内村の集落の一つ。北河内村は、郷之原村の北西に位置する典型的な山村。村の大半は森林で占められている。飫肥街道や、都城往還がとおり、江戸時代には藩領外とを結ぶ交通の要衝であった。また、飫肥藩の特産であった林産物の最大の供給地であった。

［神話・伝承に関する信仰・習俗・祭］

御子舞（潮嶽神社）
御子舞は、潮嶽神社で奉納される舞である。口碑によれば、神武天皇が東征前、潮嶽の里に火闌降尊（大伯父）へお別れのためお立ち寄りの折り歌を詠まれ、その歌にあわせて里の娘が舞ったという。春秋の例祭に氏子の娘４名が選ばれる。

海幸伝説
潮嶽は、日向神話において、山幸彦と争った末に追われた海幸彦が、たどり着き、居を構えた地と伝えられている。そのため、潮嶽神社は全国で唯一、海幸彦を主祭神としている。海幸彦は隼人の祖ともいわれている。

かにまき汁
かにまき汁は、谷川に生息する山太郎ガニをつぶして作る。作り方は山太郎ガニをかごに入れたままよく洗った後、甲羅をはずし、足も身もそのままうすに入れて、きねでついて砕き、その中にみそを加えてよくつき混ぜる。次いで水を加えて粗めの麻布でこし、なべに移してゆっくりと弱火で加熱する。



（2）保存管理（活用）計画

飫肥街道と山仮屋関所に関する関連文化財群は、道と道沿いの集落や社寺、各集落に伝わる年中行事や民間信仰などで構成されている。

このうち、近世飫肥街道については、年1回の「歴史の道を歩く」事業や地域発見講座等により、山仮屋関所や山仮屋隧道などを見学しながら街道を歩く体験を行っている。文化庁の歴史の道100選にも選ばれており、平成15年度には、宮崎県による『宮崎県「歴史の道」整備活用計画策定事業（総合計画）報告書』がまとめられた。

宿野集落や郷之原集落などの飫肥街道沿いの集落は、地割や石垣、生垣を良好に維持しており、神社の神楽や獅子舞など地域の伝統行事も継承されている。また、飫肥杉に関わる生業についていた人も多く、街道沿いの中山間地域の集落景観を維持している。今後、人口減少による空き家対策を含めた文化遺産の総合的な保存・活用方策が必要となる。

宿野の高齢者からの聞き取り調査では、旅館や商店も多く、飫肥街道が物流や人の往来の幹線道であったことや、林業が盛んで多くの人が出入りしたことが伺える。現在、人口減少が急速に進んでいることから、地域に残る無形の民俗文化財や伝統的な産業の継承とともに、飫肥街道が栄えた時代の記憶を掘り起し、記録として残すことが急がれる。

①行政が行うべき施策

- 文化遺産の調査と指定、修理等の補助（指定文化財の修理補助等）
- 文化遺産のサインの充実（総合案内板、説明板の設置、案内標識等）
- 高齢者への聞き取り（ワークショップや聞き取りによる地域の歴史や民俗等の文化遺産の抽出）
- 学校教育との連携（ふるさと学習で地域の歴史や伝統についての学習）
- 関連文化財群の周知（マップ、パンフレット作成、ホームページでの情報公開）

②地域住民が主体となって行う活動

- 潮嶽神社や郷原神社の祭礼等に係る民俗行事の継承
- 近世飫肥街道の維持・活用

８）伊東と島津の中世城郭群

～地域の歴史を示す中世城郭と関連文化財～

（１）概要と構成

中世飫肥は豊州島津氏が支配する土地であったが、豊かな山林資源と海上交通の支配をめぐって、長い間伊東氏との間で覇権争いが繰り返された。そのため、飫肥領内各所に多くの中世城郭や砦が築かれた。長期にわたる戦乱で、戦死者を悼む石塔や社寺も各所に造られた。

中世城郭や砦の分布が特に集中するのは広渡川、酒谷川の流域平野部及びそれを見下ろす丘陵部であるが、市南部の細田川や南郷川、潟上川流域や、鵜戸地区の海岸線に張り出した山上にも分布が見られる。南北朝期以降の在地有力者の成長や、伊東と島津の抗争の長期化や拡大とともに、各地区に城郭が築かれ、結果として市内ほぼ全域に城郭が分布することとなった。

城郭の分布状況は、伊東氏と島津氏の抗争の場のみならず、通行権や各集落の支配権の掌握等、当地方の中世史を考えるうえで欠かせない歴史的な意味がある。

このうち飫肥城や酒谷城のように、シラス台地に立地する大規模な城郭は深い空堀で区画された曲輪が並ぶ、南九州独特の形態をとる。今回の中世城郭調査では、伊東氏と島津氏の抗争と関わる特徴的な縄張りが確認され、今後の調査が期待される。

・広渡川上流域に分布する城郭
・広渡川下流域に分布する城郭
・酒谷川上流域に分布する城郭
・酒谷川下流域に分布する城郭
・市南部の河川流域に分布する城郭
・市北東の海浜部に分布する城郭
・伊東と島津の抗争に関わる社寺
・中世に建立された石仏・石塔群

■関連文化財群分布（主な文化遺産）

■関連文化財群一覧（主な文化遺産）

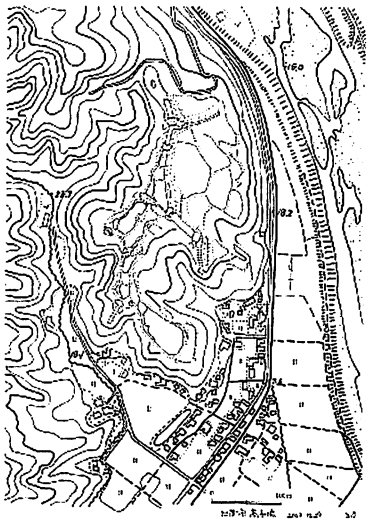
構成	文化遺産	指定状況
広渡川上流域に分布する城郭	郷之原城、高寺城、大藤玖摩陣、水ケ城、前陣野	未指定
広渡川下流域に分布する城郭	中ノ尾砦、高佐砦、鬼ヶ城、犬ヶ城、玖摩陣	未指定
酒谷川上流域に分布する城郭	酒谷城、飫肥城、上城、鎌カ倉砦、田間砦、細砂礫砦、篠ヶ城	未指定
酒谷川下流域に分布する城郭	沢津城、新山城、縣城、新城、堰ノ尾砦、東光寺砦	未指定
市南部の海浜部及び河川流域に分布する城郭	巡リ尾砦、南郷城、新城、目井城、湖雲ヶ城、谷之口城、和田城、陣の城	未指定
市北東の海浜部及び西側分水嶺に分布する城郭	天神ノ尾砦、瀬平ノ城、烏帽子嶺砦、谷之城、貝殻城	未指定
伊東と島津の抗争に関わる社寺	酒谷神社,大宮神社,山宮神社,岩崎稲荷神社,吾田神社,平野神社神楽	未指定
	益安神社、大宮神社、山宮神社、大蔵寺、稲荷神社、松尾大明神社	未指定
	大将軍社跡,常明寺跡,皇子権現跡,祥雲寺跡,光寺跡,石本寺跡,妻萬宮跡,新山寺跡,一ノ宮大明神跡等	未指定
抗争による戦死者の供養に関わる石仏・石塔群	中ノ尾供養碑、山田匡得墓、伊東民部少輔祐秋の碑、海野藤十郎墓、僧快意の墓、右衛門大夫の墓、亀沢豊前の墓	未指定

※代表的な文化遺産を示した。構成分類は試案である。

[広渡川上流域に分布する城郭]

郷原城

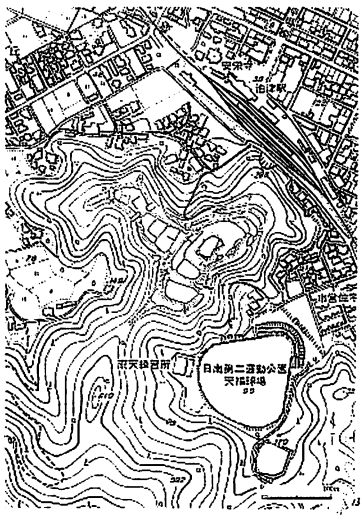
広渡川が山間部から平野に流れ出た右岸、旧北郷中学校背後の標高 127.4m の丘陵先端部を城地とする。主郭は 35m × 8m の曲輪を主体とする３段の曲輪からなり、背面に幅 10 mの堀切を入れただけのコンパクトな構造である。丘陵側の野首の尾根上にも加工度の低い小曲輪が連続する。



高寺城

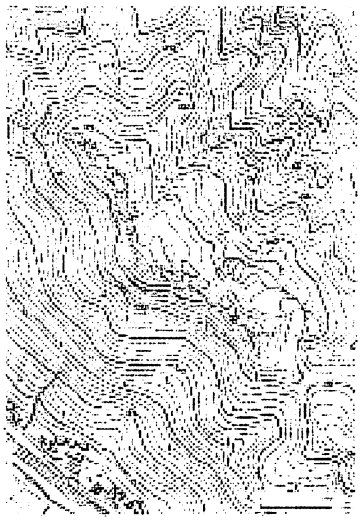
高寺城は、広渡川右岸内之田集落直上の標高 95 mの南北に長いシラス丘陵上にある。城域は丘陵の全域にわたり、南北 300 m東西 200 mにおよぶ規模をもつ。全体を通して曲輪北と西に土塁があるが、これは西側を通過した北郷—飫肥間交通路を意識した結果で、交通監視がこの城郭の大きな目的であったことを物語っている。

[広渡川下流域に分布する城郭]



沢津城

油津駅南方の標高 61.7m の丘陵先端を城地とする。主郭は、主尾根から分断した南の堀切（幅 14m 深さ６m、端部は幅３m の竪堀）と西の派生尾根を分断する高さ３mの切岸と竪堀、北東の腰曲輪群の切岸（最上段の切岸高さ６m）によって造り出されている。

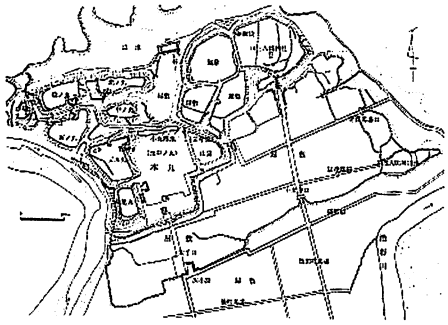


高佐砦

広渡川左岸の益安の標高 206.2 mの山上を中心に遺構が展開する。曲輪群は中央頂から南頂の東北斜面に展開するが、標高 160 mの比較的傾斜が緩やかな斜面を選んで階段状の曲輪群が丁寧に造成されている。最下段に曲輪に挟まれた窪地があり北側に虎口を開けていて、出撃口に推定できる。

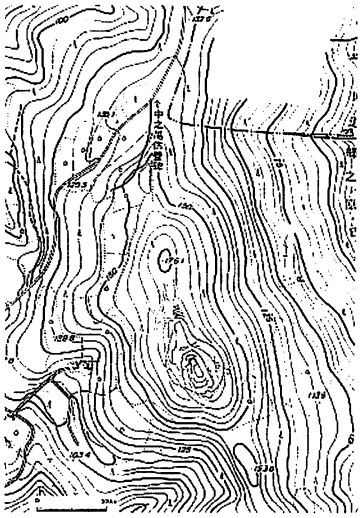
[酒谷川上流域に分布する城郭]

酒谷城
酒谷川右岸の標高 108.5 mの最大幅 100 m総長 550 mのシラス台地を城地とする。幅 20 ～ 30 mの空堀を縦横に大胆に入れて6つの郭を造り出している。さらに個々の郭内は、堀や段差によって細かく区割りされたものが多い。



飫肥城
広渡川の上流である酒谷川が大きく蛇行した小盆地に突き出た丘陵上に築城されている。中心となる城域は東西約 750m、南北約 500m で、江戸時代の初めには本丸、松尾、中ノ城、今城、中ノ丸、西ノ丸、松ノ丸、北ノ丸など 13 の曲輪と犬馬場、御倉をもつ広大な城であった。中世には島津氏と伊東氏の抗争の舞台であり、近世には飫肥藩伊東家の居城として、日向を代表する城であった。

[酒谷川下流域に分布する城郭]



中ノ尾砦
富士原峠から南に延びた標高 184 mの丘陵末端に位置し、飫肥と北郷を眼下にみることのできる要地である。城地は丘陵頂部の主郭とその北側下位の副郭からなり南北 120m 東西最大 70m の城域をもつ。

[市南部の海浜部及び河川流域に分布する城郭]

新城
隈谷川と細田川に挟まれた標高 138.2m と 137.5m の２つの丘を含んだ南北 330m の丘陵を城地とする。南丘のほぼ中央には天文 16 年（1547）の合戦による落城で戦死した新城主英巌玄雄大居士・北郷将監・北郷源七の供養碑３基が立つ。

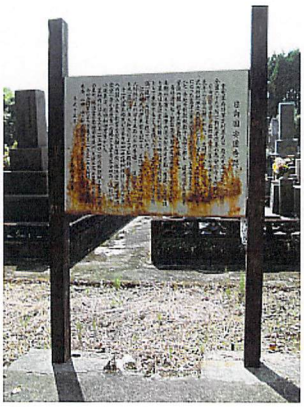
[市北東の海浜部及び西側分水嶺に分布する城郭]

島津忠広

烏帽子嶺砦
天文10年（1541）に、島津忠広が築いたとされる。天文12年（1543）に伊東義祐が攻め取った。

[伊東と島津の抗争に関わる社寺]

岩崎稲荷神社（飫肥）
『日向地誌』によると、延元２年（1337）に伊東氏が伊豆から下って、都於郡に居を構えた後、伊豆の岩崎から遷座して岩崎稲荷として祀ったのが始まりという。伊東氏が天正年間（1573～92）に飫肥に入部した際に都於郡から平野、現地へと遷座した。歴代藩主も飫肥四社のひとつとして篤く尊崇したという。



安国寺跡
日向国の安国寺は、康永元年（1342）、郷之原に建立された。戦国期には、飫肥をめぐって、伊東氏と島津氏の抗争の舞台となり、文明18年（1486）、兵火にかかって焼失したという。安国寺は、飫肥の領主になった島津忠廉により、長享元年（1487）に寺地を飫肥板敷に移し、中興した。明治５年（1872）には廃寺となっている。

[抗争による戦死者の供養に関わるもの]

中ノ尾供養碑
舟形後背をもつ地蔵菩薩碑。飫肥の一角にあった金剛院（現在の田ノ上八幡の西）の開山朝逼により建立されたと伝えられる。中ノ尾供養碑付近は「ゴウマガイ辻」「中尾」「富ヶ峰」の陣として諸記録にあらわれる。激しい戦闘の後、島津氏の意向を受けた朝逼が、伊東方戦死者の霊を慰めるため、この陣営跡に建立したとされている。

（2）保存管理（活用）計画

中世城郭群を構成する文化遺産は、城郭跡、社寺、社寺跡、石塔群等である。

中世の城郭に関する研究がまだ進んでいないことから、関連文化財群には民俗文化財や生業、交通や産業などの人々の生活に関わる文化遺産は含んでいないが、集落形態、集落と信仰との関係等、習俗や伝統行事などの民俗的要素が中世城郭群と関わりが深く、現在まで続いていることが判明した場合には、これらの要素も関連文化財群として捉える。

①行政が行うべき施策

- 文化遺産の調査と指定、修理（埋蔵文化財調査、調査結果に基づく指定、指定文化財の修理補助）
- 文化遺産サインの充実（日南市における中世城郭群分布等の総合案内板、説明板の設置、案内標識等）
- 関連文化財の周知（マップ、パンフレット作成、ホームページでの情報公開）